

 **GOOD DESIGN AWARD 2019**  
～「グッドデザイン賞」17年連続受賞～

「ラ・トゥール京都東山」・「アクシルコート渋谷神山町」  
「シティハウス千代田外神田」・「シティハウス文京茗荷谷レジデンス」・「シティタワー恵比寿」

住友不動産株式会社（本社：東京都新宿区、代表取締役社長：仁島 浩順）は、財団法人日本デザイン振興会主催の「2019年度グッドデザイン賞」において、下記の5物件を受賞いたしましたのでお知らせします。なお、今回の受賞により弊社は17年連続の受賞となります。



ラ・トゥール京都東山／外観

## 2019年度 受賞物件一覧

1. 共同住宅「ラ・トゥール京都東山」 / 京都府京都市東山区  
京都の歴史的なコンテキストに呼応した重層町屋
2. 共同住宅「アクシルコート渋谷神山町」 / 東京都渋谷区  
異なるプランの集合体を外から整える
3. 共同住宅「シティハウス千代田外神田」 / 東京都千代田区  
立体ビスタ景観を用いて、密な街並みに空景を
4. 共同住宅「シティハウス文京茗荷谷レジデンス」 / 東京都文京区  
プライバシーを守る3つのしかけ ～ディティールに拘りながら生活の表出を防ぐ工夫
5. 共同住宅「シティタワー恵比寿」 / 東京都渋谷区  
昼間は園庭、夜は庭園

# 1. 共同住宅「ラ・トゥール京都東山」 (中～大規模集合住宅部門 受賞)

## 京都の歴史的なコンテクストに呼応した重層町屋

本計画地は、京都東山の住宅街の中に位置し、小規模の木造住宅が立ち並んでいます。そのため、大きいボリュームの建物を建ててしまうと街並みを崩し、周囲の景観を損ないかねません。

このような事態を回避するために、京都の街並みデザイン要素を分析し、京都に古くからある水平を基調とした小スケールの集合体のデザインを引用しました。こうした「街からの工夫」を施すことで、景観を損なわず、伝統的な京都の街並みと共存するマンションを実現しました。



### ■ 京都の伝統的な建築要素を取り入れた外観

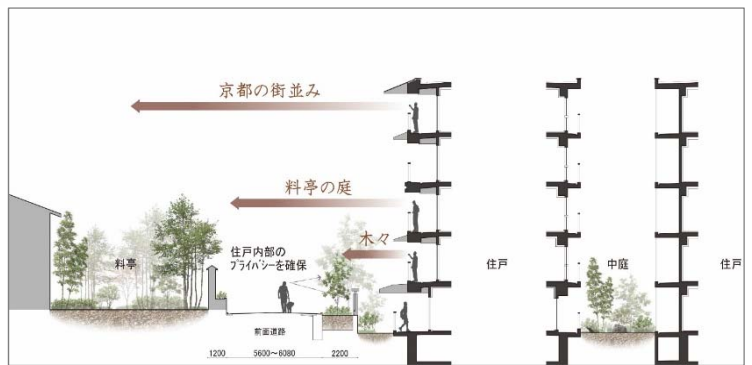


### ■ 京都の町を現代的に再現した塀により、建物が宙に浮いたように演出し、視覚的にボリュームを軽減

また、奥行き感があるガラス塀により、建物壁面が隠れ、庇が強調されることで、建物が宙に浮いたように演出し、視覚的にボリュームを軽減しました。さらに、薄く長く伸ばした庇と随所に繊細な木ルーバーを用いることで、近隣の料亭や町家などの既存の街並みに馴染みながら、新たな景観を生み出しました。



廊下より中庭を見渡す～モダンな和風庭園を実現



断面図イメージ

### 《審査員コメント》

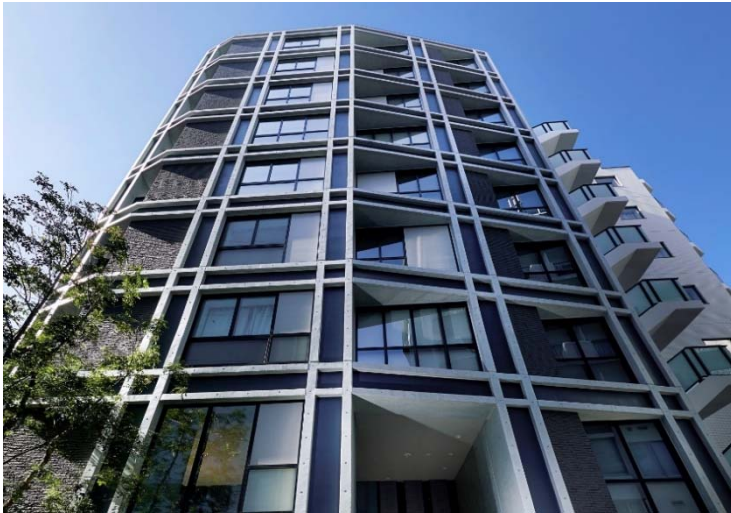
京都のような伝統的な意匠が期待される場所で、マンションと呼ばれる大規模な建築がどのように既存の街並みと調和をはかるかは、常に問題になるテーマであるが、細い軒を出して水平線を強調し、木ルーバーのような伝統的な言語に近いものを使ってボリュームを分節するなど、均整のとれた好感もてる外観に仕上がっている。軒天の木も印象を柔らかくしており、中庭のデザインも落ち着いた丹精なものとなっている。全体に完成度の高いものとなっており、伝統的な街並みとの共存を目指したものとして評価できる。

### 受賞物件 概要

所在地：京都府京都市東山区  
総戸数：52戸  
構造・規模：鉄筋コンクリート造、地上5階建  
竣工年：2018年8月

## 2. 共同住宅「アクシルコート渋谷神山町」 (中～大規模集合住宅部門 受賞)

### 異なるプランの集合体を外から整える

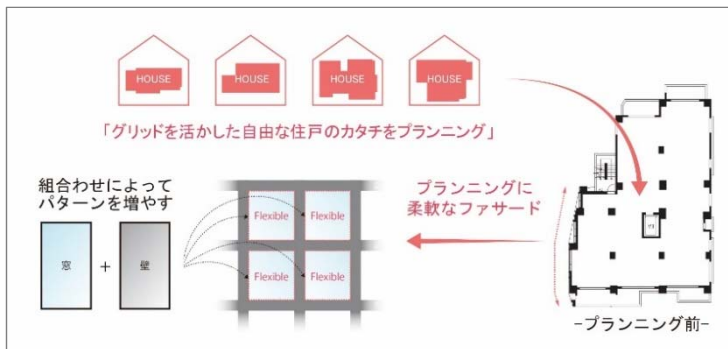


一般的なマンションは鉛直に同じ住戸プランを配置し、「上から下まで同じ住戸プラン」が一般的です。本計画では、現代の様々な生活の在り方に対応するため、メインファサード面を含め「上下階で異なる住戸プラン」を複数計画し、様々なニーズに対応できるプランニングを提案しています。また、同時に眺望の抜けを意識し、開口の位置も変化させています。

#### ■窓位置の変化も力強いグリッドで内包する



#### ■上下階で異なる住戸プラン



また、このような複雑なプランニングをすると窓位置がずれてしまい、統一感のないファサードになりがちですが、こうした問題を解決するため、「力強いグリッドライン」で覆うことで、窓の位置がバラバラでも外観に影響しないグリッドの形を生かしたシンプルなデザインを実現しました。



奥行きを感じさせるエントランスホール



2面に開口を設けた明るい室内

#### 《審査員コメント》

単身者用から家族用まで、多様な間取りを組み合わせた平面計画は、それ自体、住集体の在り方として評価できる上に、それぞれの住戸が全体の多面体の平面構成を生かして快適な住空間を創出している。また、そうした多様な住戸プランを繊細なダブルグリッドによって整理した外観は、洗練された都市的な景観を作り出している。ゆったりととられたエントランス回りの共用空間も賃貸住宅としてのクオリティーを高めているが、周辺環境との連続的な内部空間の提案があるとさらに街への貢献度が高まったであろう。

#### 受賞物件 概要

所在地：東京都渋谷区  
総戸数：33戸  
構造・規模：鉄筋コンクリート造、地上9階建  
竣工年：2018年6月

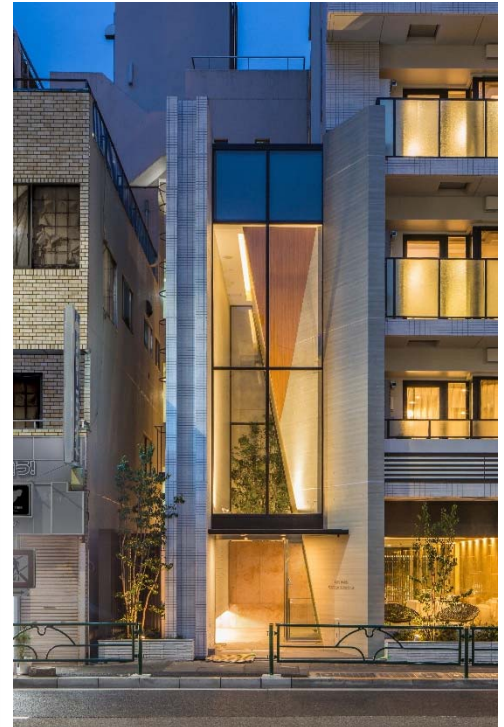
### 3. 共同住宅「シティハウス千代田外神田」 (中～大規模集合住宅部門 受賞)

#### 立体ビスタ景観を用いて、密な街並みに空景を

本計画地は、密に雑居ビルが立ち並ぶ街に位置します。エントランスは通常、住戸と同棟の1階部分に組み込まれるため、圧迫感のある景観を形成してしまいます。

そこで、単にエントランスを建物下に組み込むのではなく、別棟にすることで街に隙間を提供し、さらにエントランス自体も目線が通り抜けるように圧迫感のある景観の修復に努めました。

#### ■エントランスを別棟にすることで、街に隙間を提供



別棟としたエントランス

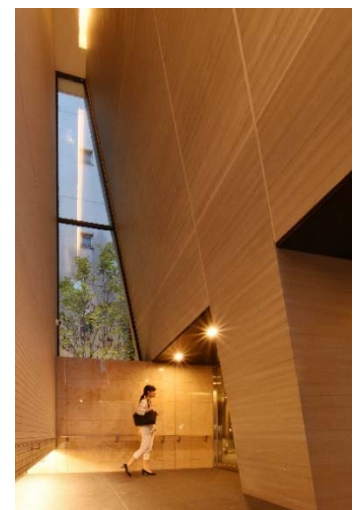
#### ■エントランス内に視覚的な抜け感を与え、密なビル群の中でも十分な採光を確保する

さらに、別棟としたエントランスには、“立体ビスタ空間”の考え方を取り入れ、手前が広く、奥に行くにつれ幅が狭くなるメガホン型の遠近効果を採用し、幅の狭い場所でも奥行きを感じられる空間を演出しました。また、エントランスに接している住戸の採光・通風を確保する工夫も同時に実現しています。

また、エントランスの先にある吹き抜けは、より視線を奥の窓へ誘導し、隙間なく立ち並ぶビルの中に抜け感を生み出している。



住戸と別棟としたエントランス棟が街並みに隙間を生む外観



“立体ビスタ”効果を生かしたエントランスホール

#### 《審査員コメント》

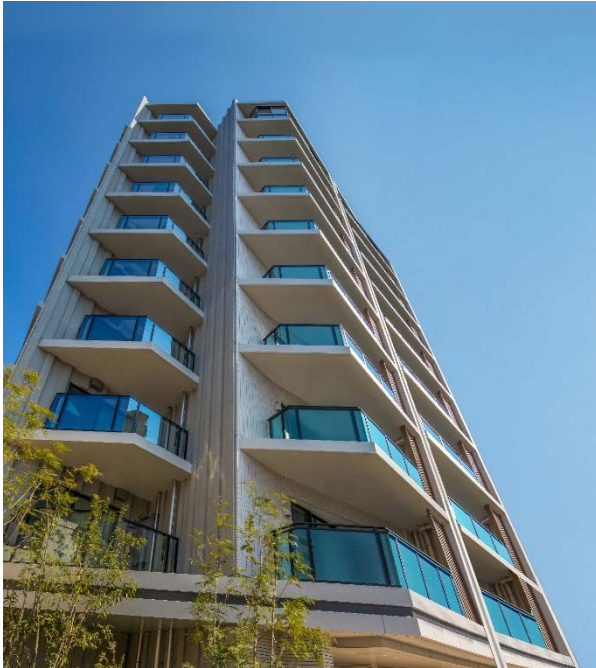
よくある規模誇示型マンションのエントランス共用部付近のデザインが威圧的、あるいは過剰に「立派」になりがちであることは対照的に、この作品のエントランスは住戸を内包するボリュームから分割された独立棟のように扱われており、そのサイズは周辺建築物の大きさや肌理感に揃えられていて馴染んでいる。玄関というものは、その居住者の思想的な本質を「構え」として周囲に表明することになるが、このような地域への態度は、しばしば「マンション族」対「地元住民」と表現される軋轢を解消し、関係を良好なものとするに役立つことだろう。

#### 受賞物件 概要

所在地：東京都千代田区  
総戸数：93戸  
構造・規模：鉄筋コンクリート造、地上3階建  
竣工年：2018年12月

## 4. 共同住宅「シティハウス文京茗荷谷レジデンス」 (中～大規模集合住宅部門 受賞)

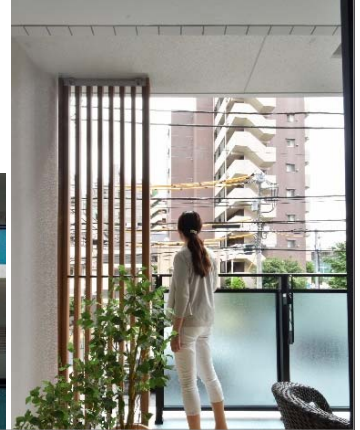
### プライバシーを守る3つのしかけ ～ディテールに拘りながら生活の表出を防ぐ工夫



都心部のマンションは多様な人が住まう上に、近隣や道路に近接するためプライバシー確保が難しい場合があります。本計画では、「生活感の表出」を軽減するために、3つの異なるしかけを提案しています。

#### (1) 外と半外のしかけ / 木格子で生活感の表出を防ぐ

手摺の端に木ルーバーを設け、風を取り込みつつ外部の視線から独立させ、外観意匠性も向上させています。



#### (2) 内と外のしかけ / 軒を深くデザイン (見上目線カット)

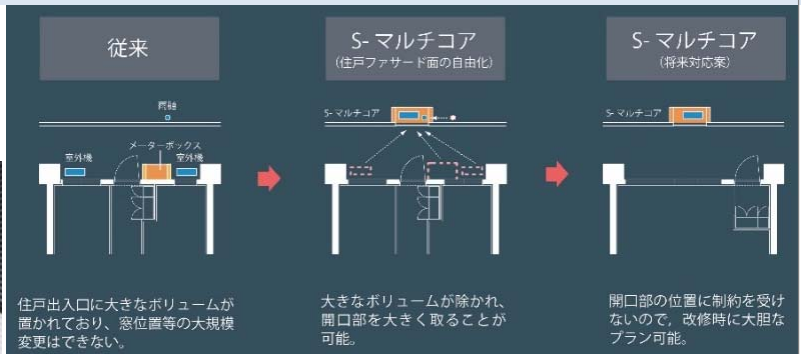
庇を伸ばして軒を深くデザインすることで、路上からの視線を遮ることでプライバシーを守っています。また、住居から外を眺めた際は、遠景のみが視界に入るように工夫しています。



#### (3) 外と外のしかけ / 建物の更新性を高める「S-マルチコア」

室外機やメーター類の設備機器をひとつのシャフトに格納した「S-マルチコア」の採用により、外廊下から生活音と生活感を払拭する工夫をし、静穏でプライバシーの保たれた生活環境を実現しています。

室外機が露出しない  
外廊下



#### 《審査員コメント》

共同住宅では、積層することで顕在化する設備や構造の条件を、いかに解くかが大きなテーマである。多くの企業が競い合い、なかなか新しいアイデアが出にくくなっている中で、本計画の「S-マルチコア」はとても興味深い提案だ。これは設備関係を合理的に解くアイデアだが、住戸の多様性や地域性といった個別階的なテーマとは異なり、多くの他のプロジェクトでも応用可能なアイデアである点は、グッドデザイン賞にふさわしい。

#### 受賞物件 概要

所在地：東京都文京区  
総戸数：72戸  
構造・規模：鉄筋コンクリート造、地上10階建  
竣工年：2018年11月

## 5. 共同住宅「シティタワー恵比寿」 (中～大規模集合住宅部門 受賞)

### 昼間は園庭、夜は庭園

都心部の小規模保育園は設置義務がないことから、園庭を計画しないケースも多くあります。本計画では、小規模保育園を併設したマンションにおける公開空地の有効活用を提案しています。

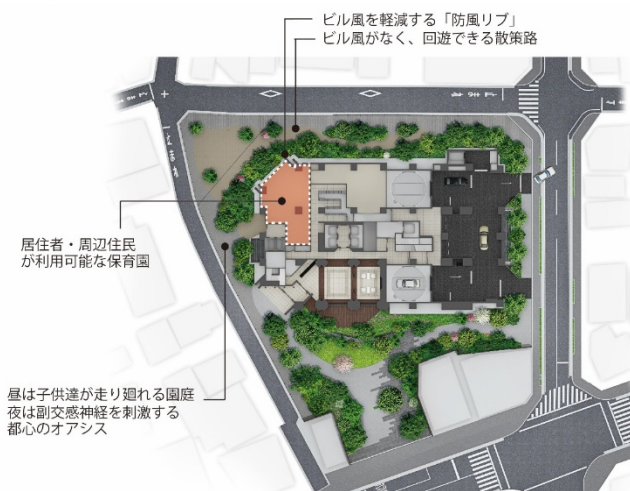
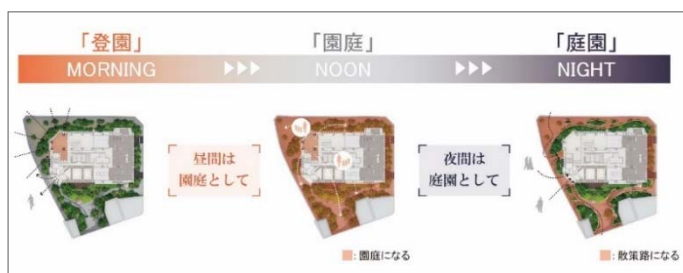
高層マンションだからこそ確保可能な公開空地を「子供たちが安全に遊び回れる園庭」にできると考え、ビル風を軽減する「防風リブ」を用いながら、回遊性の高い空間をデザインしました。

また、一般的なビル風対策は、建物の平面形状の角をなくすことが有効となります。本計画では、この効果に加え、垂直リブを設けることで、風速を「より減衰」させることを実現しました。ビルが密集したエリアにおける公開空地だからこそ風環境に配慮した建物とし、心地良い場所を提供しています。

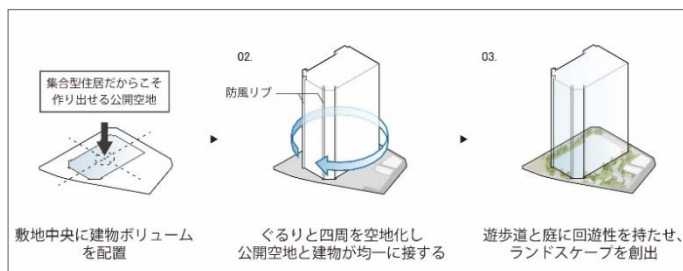


公開空地(昼と夜)

### ■公開空地の新たな活用法 - 園庭／庭園 - 昼夜で異なる役割を与える



### ■庭先を走り回れる回遊導線 —笑顔をつなぐシーンを創出



風は子供達が走り回る園庭 夜は副交感神経を刺激する都心のオアシス

緑の多い空間は、子供だけでなく、大人にとっても季節の移ろいを感じ、都会の喧騒から離れることのできる都心のオアシスの役割を果たします。

### 《審査員コメント》

公開空地制度によって緑地は整備されるものの単なる美観向上にとどまってしまっている場合が多い。それに対して、1階に計画する保育園の園庭として公開空地を積極的に生かしていこうとする本プロジェクトの試みはまず評価できる。またプログラム上の提案にとどまらず、高層ビルからのふきおろしの風を軽減させる外観デザインの工夫と一体で考えている点も重要である。高層マンションの足元の活用を真剣に考えると、それは配置計画や外構計画という部分的問題ではなく建築デザイン全体の問題であることが示されているのだと思う。

### 受賞物件 概要

所在地：東京都渋谷区  
総戸数：310戸  
構造・規模：鉄筋コンクリート造、地上23階建 地下2階建  
竣工年：2019年3月